

富田林市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画【中間見直し】(素案)
に対するパブリックコメントの実施結果について

- ① 実施期間: 令和5年1月4日(水)～令和5年1月31日(火)
- ② 実施結果: 3通(うち有効数3通)
- ③ 提出方法: 窓口持参1通、FAX1通、Eメール1通
- ④ コメントにより修正した箇所: なし

○ 第3章 ごみ処理の現状と課題

NO	ページ	該当項目	意見概要	市の見解
1	17	2. 富田林市のごみ処理の現状	資源ごみ回収に「コンテナケース」を使用していた期間があるが、現在はナイロン袋を使用している。SDGsの観点から、使いたくないが検討できないか。	資源ごみ回収のコンテナ回収は管理の問題などがあり過去に廃止になった経過があります。SDGs や海洋プラスチック問題などの観点も踏まえ、今後の検討課題とさせていただきます。
2		表3.3.2	無料ごみシールの配布枚数について、配布形態が4種類であるが、1人家庭を基準に考えると、余裕率は、1人と3人家庭が高く、2人と4人家族が同じである。家族数を2人ずつで区切らず1人ずつで区切って配布してほしい。シール制に係る費用と効果のバランスが取れているのか。余らせているシールの総数と不足で買いに来るシールの総数など検証し、シール制は廃止すべき。	今回の市民調査アンケートでは、6割の方が現状のシール枚数で【ちょうどい】、2割は【余っている】、その他を含むおよそ2割が【不足している】という結果になっております。 今後も3市2町1村と南河内環境事業組合とともに、ごみ処理事業を推進していく上で参考とさせていただきます。
3	26	2. (2)ごみの排出状況 ②家庭系ごみの排出量	家庭系ごみ排出量について、大阪府平均、全国平均と比較して多い。水分が51%との状況に驚いている。人口減少でごみの排出量が現状維持予測ということで、減量化の対策の必要を感じる。市民として、今まで以上に協力していかなければと思う。「ごみ処理手数料」については、「まずは、ごみの減量化、コスト削減に取り組む」計画であることから、上げなくて良いように検討をお願いする。	本市は全国、大阪府内平均と比較して多い状況にありますが、家庭ごみ排出量は平成30年度をピークに減少傾向にあります。 ごみ減量化を進めるうえで大きな課題であり、継続的な啓発活動、環境学習の充実、4Rの推進を進め更なる減量化を目指して行きます。
4	40	2. (4)排出抑制・資源化への取り組み ①家庭系ごみ	広報とんだばやし・HP・SNSで広報、パンフレットで情報提供とあるが、情報への理解度合いは個人で違う。市町村、自治会・町会でも違いのあるように思う。住所地変更の際は、ごみシールを渡す際に説明などをよろしくお願いする。	広報・HP等様々なかたちでごみの出し方・分別の啓発活動を行っております。 毎年度全世帯へ配布する【ごみの出し方分け方パンフレット】は1年を通し頂いた様々なご意見をもとに作成し、転入される方には口頭で本市の分別等を説明し啓発に努めております。

○ 第5章 ごみ処理基本計画の基本施策

5	63	2. 基本方針Ⅰ「発生抑制・排出抑制・再使用の推進」	(4)ごみの出し方(水切り)減量化について、ごみステーションの出し方でも、水切りの仕方、ごみ袋を新聞で巻くなど、ルール、マナーも個人の感覚が違う。	ごみの減量化のため、生ごみの水切り、食材の使いきり、料理の食べきりを加えた「3キリ運動」を推進し、正しい出し方の啓発を進めてまいります。
6			(5)食品ロス削減の推進について、食品ロスを無くすメニューやごみ削減アイデア集があれば、楽しくできる。楽しくできることがあると、続けられる。	ごみ減量化を進める中で、食品ロスを無くすメニュー集や削減アイデア集の広報等においても他課と連携しながら検討してまいります。
7	65	4. 基本方針Ⅲ「適正処理の推進」	(2)新たな分別収集品目の見直しについて、賛成です。「金属類」などを分類してはどうか。液体紙パック、卵パックの収集の工夫を。収集ポストには行きにくい。	資源循環促進法に基づく分別・資源化に関する国の動向を踏まえて、検討してまいります。
8	66		(7)適正処理困難物等への対応について、掲載のない家庭から出るコンクリートガラについては、市は処理する責任がある。清掃工場で処理できないので引き取れないではなく、市民のことを考えて工場を市の都合に変えていくべき。不法投棄や不適切処理を防げる。	現在、処理困難物として取り扱っておりますが、今後のごみ処理行政推進での貴重なご意見として参考にさせていただきます。

○ その他、全般

9		計画全般	家庭ごみの量が増加していることに驚いている。第1清掃工場が設置されている地域は、ごみについての意識、運搬車による騒音や事故、排ガスなどに関心が高い。古新聞や段ボール回収の際に出されている補助金は団体にとってありがたい。粗大ごみの有料化などは、関心も高くなり、ごみの減少にもつながる。ごみ減量化のメリット、デメリットを図りながら取り組んでほしい。	家庭系もえるごみの量は平成30年度をピークに減少傾向、粗大ごみ及び資源ごみは概ね横ばいで推移し、全体としては令和2年度以降減少傾向にあります。今後のごみ減量化対策を進めて行く上で、有価物奨励金制度等のメリットやその他のデメリットを踏まえご意見を参考にしながら進めてまいります。
10		計画全般	素案の紙面が多く、家庭で印刷も時間と経費がかかる。概要版が必要。解説はあるが、専門用語が多く、関心や理解を高めるため説明会の検討をお願いします。	貴重なご意見として、今後計画推進していく上で参考とさせていただきます。概要版につきましては作成を進めてまいります